

狐の变化玉・隠岐郡海士町御波

令和2年8月12日掲載予定

収録・解説・酒井 董美^{ただよし} イラスト・福本 隆男

連載にあたって

島根県内の民話を60話(隠岐、出雲、石見の順で各20回)紹介する。ここでは解説を主体とし、具体的な話は出雲かんべの里のホームページ「民話の部屋」から、記されたQRコードで語り手の声をお聴きいただく趣向である。(QRコードを利用せず、直接、出雲かんべの里「民話の部屋」HPからお聴きになりたい方はhttps://kanbenosato.com/minwa/kancho_200607.htmlで検索なさってください。

なお、収録時に語り手ご本人から発表の許可も得ている。学術上の必要もあるので、連載ではお名前などを明記させていただいた。読者の皆様もご了解いただきたい。
イラスト担当の福本氏は隠岐郡海士町出身で、現在は埼玉県三郷市在住。長年筆者とコンビを組んでいる。

☆ ☆ ☆

狐の变化玉・隠岐郡海士町御波

語り手 浜谷包房さん (昭和3年生まれ)
収録 昭和51年5月29日

あらすじ

昔。杉の木のとりに川が流れており、悪賢い狐がいて杉の木のとりを通る人々を化かして、品物を取っていた。

村人たちは困り果ててお寺の和尚さんに相談する。和尚は一計を案じて、狐の出そうな川のそばの草むらに小さな船を隠し、石を拾って泥を塗りたくっていると狐が現れた、「和尚さ

ん、何をしている」「この玉は先祖代々大切にしている八変化できる变化玉だが、近頃悪いやつが出てきているようなので、分らないように泥で汚しているところだ」。

それを聞いた狐はほしくなり「わしの七変化できる玉と換えてくれ」と言う。

和尚さんは、それならおまえから七変化できるか見せたら交換してやる。七福神に化けてみる」。狐は七福神に化けた。和尚さんは「わしはもう一つ、七福神の乗る船に化けられる」と泥石で作った玉を転がし、隠した船を糸で引っ張り出した。狐はいよいよそれがほしくなり、これまで取った宝を添えて変化玉を交換することにした。交換した途端、和尚さんは七変化玉をそばの石に投げつけ粉々にしてしまう。

狐は「和尚、わしがこの变化玉で化けて、品物を取り返して見せる」と言つて「大蛇になれ」とやつたけれど、何にもならないので、泣き泣き山へ逃げていった。

解説

筆者が隠岐島前高校在職中に郷土部を作り、民話などを部員たちと収録していたとき伺った話である。語り手の浜谷さんは、ご自身もこの方面に関心の深い方であった。

この話は関敬吾『日本昔話大成』で語型を調べると、本格昔話の中の「人と狐」に「八化け頭巾」として次のように登録されている。

1、和尚が狐に尻尾が見えるといつて欺き、狐の七化け頭巾(玉・欲しいもの)の出る頭巾(と、篩に紙をはった)八化け頭巾とを交換する。2、狐は八化け頭巾をかぶつて子供または犬に追われる。3、狐は欺かれたのを知つて、(母・山伏に化け)取り返しに来るが失敗する。(元島根大学法文学部教授)